

【A】 2. 業務記録(運転日報)

○事業者は、業務を行った運転者ごとに次に掲げる事項を記録させ、
1年間保存しなければなりません。

- (1) 運転者等の氏名
- (2) 自動車の登録番号、事業者が定めた車番または車号
- (3) 業務開始と終了の地点及び日時並びに主な経過地点及び業務に従事した距離
- (4) 業務を交替した場合におけるその地点及びその交替日時
- (5) 休憩または仮眠、睡眠をした地点及びその開始・終了の日時
- (6) 車両総重量**8トン**以上または最大積載量**5トン**以上の事業用自動車の運行の業務に従事した場合にあっては 次に掲げる事項
 - イ 貨物の積載状況(貨物の重量又は貨物の個数、積付状態)
 - ロ 荷主の都合により集貨又は配達を行った地点(以下「集貨地点等」という)で待機した場合にあっては次に掲げる事項
 - ① 集貨地点等
 - ② 集貨地点等への到着日時を荷主から指定された場合、その日時
 - ③ 集貨地点等に到着した日時
 - ④ 集貨地点等における積み込み又は取卸し(以下「荷役作業」という)の開始及び終了日時
 - ⑤ 集貨地点等で当該一般貨物運送事業者等が、貨物の荷造り、仕分けその他貨物自動車運送事業附帯する業務(以下「附帯業務」という)を実施した場合、附帯業務の開始及び終了日時
 - ⑥ 集貨地点等から出発した日時
 - ハ 集貨地点等で、当該一般貨物運送事業者等が荷役作業又は附帯業務(以下「荷役作等」という)を実施した場合(荷主との契約書に実施した荷役作業等の全てが明記されている場合にあっては、当該荷役作業等に要した時間が1時間以上である場合に限る)には次に掲げる事項(ロに該当する場合は①及び②に掲げる事項を除く)
 - ① 集貨地点等
 - ② 荷役作業等の開始及び終了の日時
 - ③ 荷役作業等の内容
 - ④ 上記①～③について、荷主の確認が得られた場合は荷主が確認したことを示す事項、当該確認が得られなかった場合はその旨
- (7) 道路交通法第67条第2項に規定する交通事故、自動車事故報告規則第2条に規定する事故または著しい運行の遅延その他の異常な状態が発生した場合には、その概要及び原因
- (8) 運行の途中において、運行指示書の携行が必要な業務を行うことになった場合には、その指示内容。

※(6)関連「附帯業務」例: 荷造り、仕分け、検収・検品、横持ち、縦持ち、ラベル貼り、はい作業等

【チェックポイント】

- ・業務記録簿へ記載すべき事項が、記載されていますか？ ☐
- ・特に記載漏れの多い「休憩した地点・時間」や「貨物の積載状況」(大型車のみ)は記載されていますか？ ☐
- ・業務記録を1年間保存していますか？ ☐

項目判定

☐ 適 ☐ 否